



上北だより

308号
平成28年2月29日
練馬区立上石神井北小学校
校長 市川 順康

「あいさつの先にあるもの」

校長 市川 順康

1月の月曜日、練馬区でも雪が積もりました。朝の通勤時間にも影響が出るほどでした。雪の日のもう一つ大変な仕事は、「雪かき」です。夜の寒さで雪が凍らないうちに、家やお店などの周辺を歩きやすいように、雪を掃いておかなければ、次の日、足下が悪く、滑ってしまうこととなります。雪国では、屋根の雪もこまめに下ろさないと、雪の重みで建物がつぶれたり、雪そのものが落ちてきて大きな事故になってしまいます。

その月曜日、学校からの帰り道での話です。あるお店の前で、雪かきをしていた、老夫婦がいらっしゃいました。わたしは、近くを通りましたので、大人のたしなみとしても感謝の気持ちを伝えたいと思い、掃き終わったコンクリートの部分を「ありがとうございます」と言いながら、通りました。すると、そのご夫婦は、手を止め、腰を伸ばしながら、「おつかれさまでした、お気をつけて」と、自然に、ことばを返されました。わたしは、自分の言葉を出した瞬間、自分の心の中で、大人のたしなみとして自信をもってあいさつができたと思っていましたが、やはり、この老夫婦のあいさつの言葉には、恐れ入りました。「恐縮」とは、まさにこのようなことだと思いました。本当の大人のあいさつとは、こういうものなのだと感服しました。

上北小でも、あいさつの指導をしています。今年は、代表の上級生が、朝の登校の時間に大きな声で「おはようございます」とあいさつをして模範となっていました。他の子供たちも、本当に大きな声でさわやかにあいさつをしています。大きな声であいさつをすることは、豊かなコミュニケーションのきっかけになります。ただ、大きな声であいさつができるからといって、仲間同士で、いじめやけんかがあつては意味がありません。あいさつがきっかけとなって、その先に、優しく、あたたかみのある言葉が続いていくこと、このことが豊かなコミュニケーションをもたらします。相手の立場に立ち、思いやりをもって、あいさつをしたり、言葉を交わしたり…。大人も含めて、あいさつから始まる人間性豊かなコミュニケーションの中に、いかに「優しさ」や「思いやり」の気持ちを込めていくかが、あいさつの習慣の先にあるものの大切さを教えられた瞬間でした。

本校の教育目標の「心ゆたかなじょうぶな子供に育てる」という教育目標を達成するために、教職員一同、1年間、力を合わせて取り組んで参りました。行き届かない点多々ありました。ただ、子供たちの心と体が成長した姿をもって、また、次の学年に引き継いでいかなければなりません。尚一層、保護者、地域の皆様のご支援、ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

3月の行事予定

- | | |
|---------------------|---|
| 1日(火) 中学年保護者会 安全指導日 | 14日(月) 全校朝会 5時間授業 |
| 2日(水) 謝恩会・祝う会 | 18日(金) 5時間授業 |
| 3日(木) 低学年保護者 | 21日(月) 振替休日 |
| 4日(金) 避難訓練 | 23日(水) 給食終了 大掃除 |
| 7日(月) 全校朝会 委員会活動 | 24日(木) 修了式(1~4年は9:50頃下校)
卒業式予行(5・6年) |
| 8日(火) 社会科見学<5年> | 25日(金) 卒業式(5・6年) |
| 9日(水) 個別指導日 | 26日(土) 春季休業日始 |
| 10日(木) 個別指導日 5時間授業 | ※28年度 第1学期始業式・入学式は、
4月6日(水)です。 |
| 11日(金) 個別指導日 5時間授業 | |